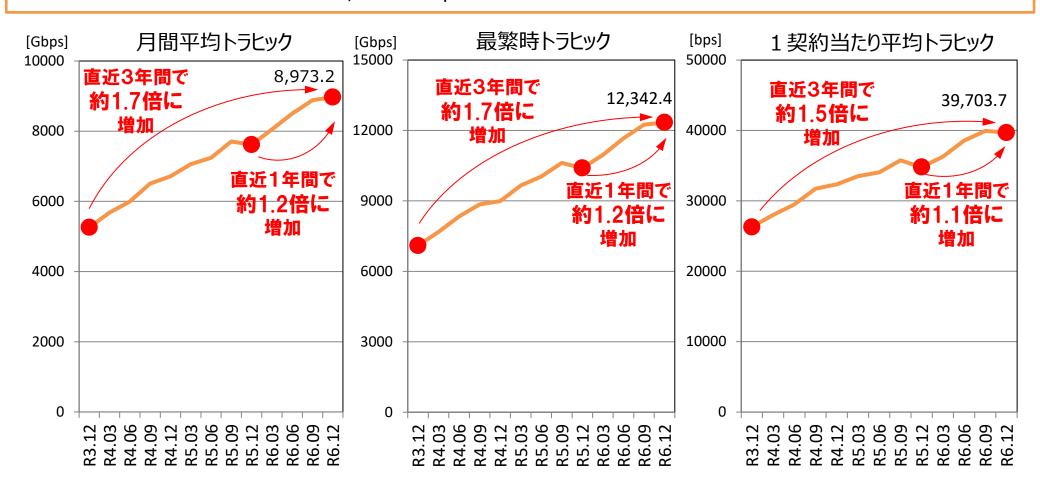
移動通信トラヒックの現状 (令和6年12月)

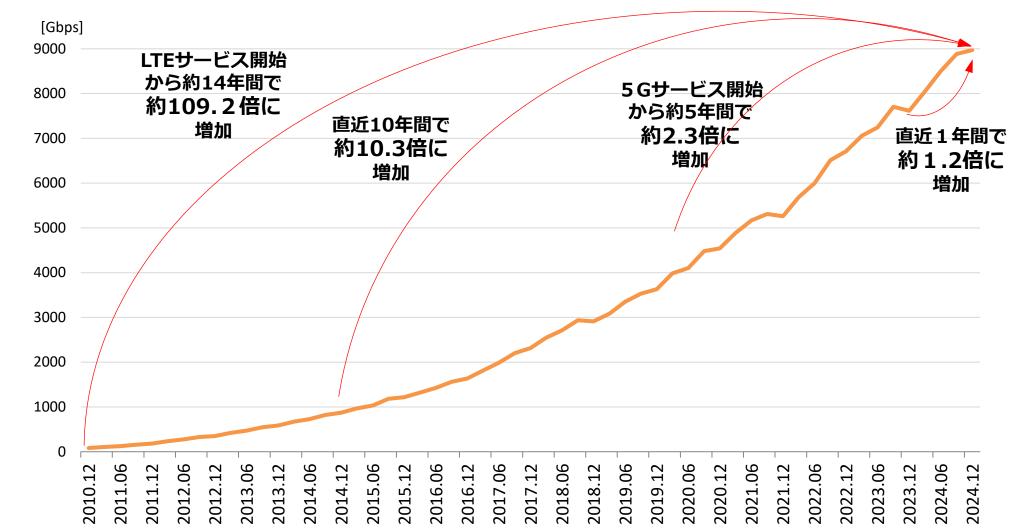
- 移動通信事業者6者(NTTドコモ、KDDI(沖縄セルラー電話含む)、ソフトバンク、楽天モバイル、UQコミュニケーションズ、 Wireless City Planning)の報告を基に移動通信のトラヒック量(非音声)のデータを集計・分析
- 令和6年12月の移動通信トラヒック集計値は、
 - ・ 月間平均トラヒック 8,973.2 Gbps (1年間で約1.2倍(+17.8%)、3年間で約1.7倍(+70.6%))
 - ・ 最繁時トラヒック 12,342.4 Gbps (1年間で約1.2倍(+18.6%)、3年間で約1.7倍(+73.9%))
 - ・ 1契約当たり平均トラヒック 39,703.7 bps (1年間で約1.1倍(+14.4%)、3年間で約1.5倍(+51.5%))



(参考)移動通信トラヒックの長期的推移

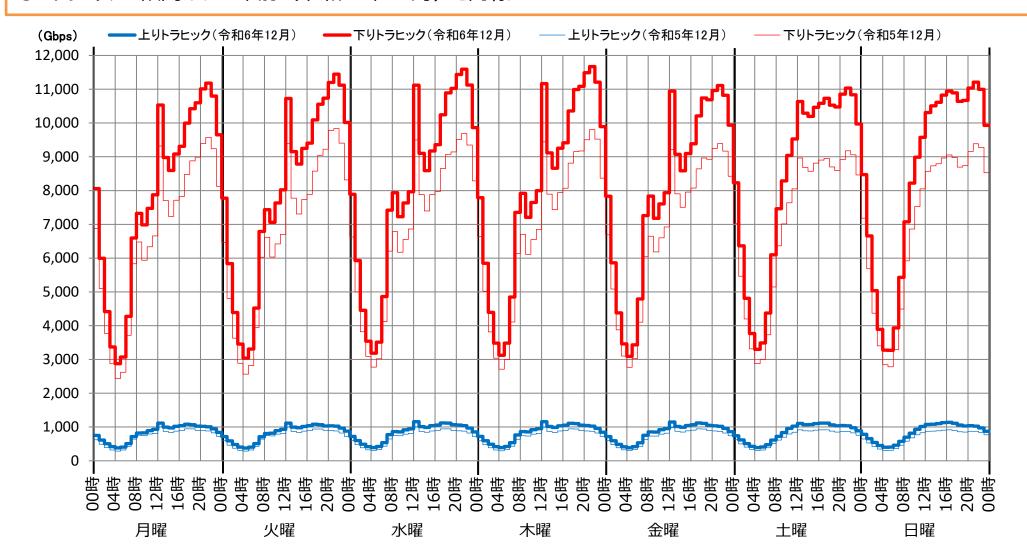
- 移動通信トラヒック(月間平均トラヒック)は急増しており、直近10年間で約10.8倍に増加
- LTEサービス開始(2010年12月)から約14年間で約109.2倍、5Gサービス開始(2020年3月)から約5年間で約 2.3倍に増加

月間平均トラヒックの推移(2010年12月から2024年12月)



(参考)移動通信トラヒックの時間的推移

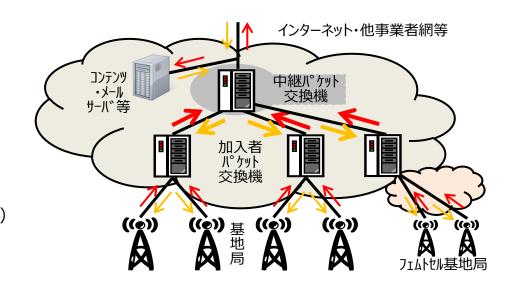
- 平日は、朝から徐々に下りトラヒックが増加し、12時頃に一時的なピーク、21~22時頃に最大
- 休日は、朝から昼にかけて急激に下りトラヒックが増加し、その後おおよそ一定のトラヒック
- トラヒックの傾向は、1年前(令和5年12月)と同様



(参考) 移動通信トラヒックの集計方法・集計値詳細

集計方法

- ○中継パケット交換機(GGSN/EPC)相当にて計測・集計 (詳細な計測箇所は各事業者により異なる。)
 - 上り・下り別、1ヶ月間、1時間単位で計測し、集計
- ○次のトラヒックを含む
 - IMT-2000のデータトラヒック
 - キャリア内で折り返してインターネット等へ出ないトラヒック
 - フェムトセル基地局の携帯無線通信に係るトラヒック
 - MVNO(仮想移動体通信事業者)に係るトラヒック
- ○次のトラヒックを含まない (中継パケット交換機を経由しないため)
 - 音声(通話)トラヒック
 - 公衆無線LANを経由したトラヒック



移動通信トラヒック集計値 (令和6年12月)

トラヒック		上り	下り	上下合計
月間通算トラヒック				
	平均トラヒック	842.5 Gbps	8,130.7 Gbps	8,973.2 Gbps
	(対前年同月比増加割合)	(+19%)	(+18%)	(+18%)
	月間延べトラヒック	282,055.6 TB	2,722,164.9 TB	3,004,220.5 TB
最繁時トラヒック(ピーク時間:21時)				12,342.4 Gbps
(対前年同月比増加割合)				(+18.6%)
1契約当たり ※グループ内取引調整後 合計約2億2,600万契約 (単純合算 合計約3億1,598万契約)				
	平均トラヒック	3,727.6 bps	35,976.0 bps	39,703.6 bps
	(対前年同月比増加割合)	(+15.0%)	(+14.0%)	(+14.1%)
	[単純合算の場合]	[2,666.2 bps]	[25,731.8 bps]	[28,398.0 bps]
	月間延べトラヒック	1,248.0 MB	12,044.8 MB	13,292.8 MB
	[単純合算の場合]	[905.5 MB]	[8,739.5 MB]	[9,645.0 MB]